

【氏名】岡田 健太郎

【所属大学院】（助成決定時）東京大学

【研究題目】

カナダ政党政治の変容 ―二大政党制から多党制へ―

【研究の目的】

多民族国家であるカナダは、にもかかわらずこれまで流血の惨事にいたるような民族紛争もなく、平和のうちに存在してきた。本研究はそのようなカナダの政治システム、とりわけ政党システムに焦点をあて、その統治メカニズムを探ることを主要な目的としている。具体的には建国以来これまでの政党システムの来歴をたどり、そのうえで1990年代のカナダ政党政治の変容を分析することを目的とした。カナダでは1993年の総選挙においてそれまで政権の座にあった進歩保守党がわずかに二議席に終わる敗北を喫し、その後のカナダ政治は不安定化する様相を見せていた。このときの選挙において登場したケベック州独立主義政党であるケベック連合や、西部地域の地域主義政党である改革党は、その後のカナダ政治にどのような影響をあたえるのか。本研究ではこれらの点に留意し、政党システムの変容がこれまでの多民族共存の政治メカニズムにどのように影響するかを分析するとともに、さらに今後の政党政治の可能性を示唆することを目的とした。

【研究の内容・方法】

大学院進学以来、これまで一貫してカナダ政党政治の研究を行ってきた。本研究ではそれを踏まえて現地調査を行うことで、より実証的で包括的な分析を提出することを意図していた。研究の内容は以下の通りである。

まず、1993年以降のカナダ政治が大きな変動局面にあるとの認識に立ち、その観点から理論的な分析を進めた。具体的には、デュヴェルジェ、サルトーリに代表される政党システム理論に依拠しつつ、1990年代にカナダ政党システムがどのように変動したのかを分析した。カナダの政党システムは、93年連邦下院総選挙以降どのように変動、あるいは変容したとどういうのか。この点に留意しつつ、丁寧な分析を展開した。また、デモクラシー論といった観点からも、実はカナダ政治、カナダ政党政治が変容しつつあるのではないかという認識に立ち、その点からの分析をおこなった。具体的にはリプセット、ロッキンらのクリヴィッジ理論に依拠しつつ、それらがどのようにカナダ政党政治の変動に影響したのかを分析した。また、レイプハルトらの多極共存デモクラシー理論を参照しつつ、その観点からカナダ政治がどのように理解されるのかを分析した。レイプハルトはカナダを純粋な多極共存型デモクラシーとは述べていないものの、それに準じた政体であるとの認識に立っている。本研究ではこのレイプハルトの議論に依拠するかたちで分析を行い、そのデモクラシーのかたちとでも言えるものを明確に提示できるように心がけた。また、研究

の方法としては、現地において実際に政党関係者、連邦議会下院議員、元議員らにインタビューすることにより、より実証的な分析となることを心がけたつもりである。なお、本研究はちかちか雑誌に掲載される予定になっている。掲載され次第、研究成果報告書によって貴財団にご報告する予定でいる。

【結論・考察】

カナダ政党政治の変容は現在でも続いており、容易な結論は極めて難しいもの、いくつかの方向性は見出せるように思えた。方向性としては、二つある。一つは多党化であり、もう一つは地域化である。多党化とは93年以降、保守党、連邦自由党、新民主党に続く第三政党として登場したケベック州分離独立派政党であるケベック連合と、西部地域主義を代表する改革党の登場である。この多党化という現象は、93年以來10年以上を経た現在でも変わっておらず、今後もこの現象は継続するものと思われる。本研究ではこの点を踏まえ、今後のカナダ政党政治がガヴァナンスという観点からも変容を余儀なくされるのではないかということを示唆した。また、地域化という概念により、既成政党である連邦自由党、保守党、新民主党までもが地域的割拠性を強め、総じてカナダの連邦レベル政党全てが地域政党しつつあるのではないかとの見解を提示した。この点においては、カナダにおける全国政党の終焉とでもいえるものが起こっているとの認識に立ち、90年代以降のカナダ政党システムを「地域政党型政党制」と名づけ、これまでのカナダ政党制の系譜のなかに位置づけることをこころみた。